

2021年2月11日

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
会長 森喜朗様

日本バプテスト連盟 性差別問題特別委員会

森喜朗・公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長の一連の発言に抗議します

2021年2月3日、日本オリンピック委員会臨時評議員会において、森喜朗会長がされた「女性」についての一連の発言に抗議します。

貴方が、公益財団法人という公益を目的とした事業を行う組織委員会の会長という公的な立場にありながら、憶測と偏見と不確かな情報に基づいた差別発言を臨時評議員会の場で繰り返したことは、あまりにも不適切で不謹慎なことです。その際、「わきまえ」という言葉を用いて、ある女性たちを批判し、別の女性たちを褒めるという「評価」をしました。これは、ご自分の意に沿うか沿わないかのみで「女性」をグループでくくり、そこにレッテルを貼った上で「わきまえ」を暗に強要するパワーハラスメント以外の何物でもありません。メンバー個人による自由闊達な意見交換があるべき場を無視した、横暴な振る舞いです。

一連の差別発言の際は、会場で笑いが起きたことも報道されています。一人ひとりが、神に創られた「かけがえのない尊いいのち」として尊重されることを目指して活動している私ども日本バプテスト連盟 性差別問題特別委員会としては、これらの状況は看過できるものではありません。なぜなら、それは社会のあらゆる場にいる女性たち、並びに性別を問わず、強い力を持つ多数派の強引な流れに異議を唱えようとする少数派の者たちを押さえつけ、沈黙を強い、忖度を強要する暴力だからです。

翌4日の記者会見において、貴方は3日の発言を撤回しました。しかし、その様子はあまりにも傲慢なものでした。これによって二重に傷ついた者がいることを、よくよく認識してください。そして、ご自身の差別発言の重さと、その発言によって苦しむ者たちが存在するという現実を深くお受けとめになってください。また、「発言を撤回したことで決着」という、従来繰り返してきたやり方で済ませてしまうことはもうお止めになり、この問題について学ぶ努力をまず始めていただきたいと思います。この問題の本質を理解し、真摯に受けとめるためにも会長を辞任するようここに求めて、抗議いたします。